◎平成21年漁業種類別主要魚種の水揚状況

	平年に比べて好漁（120%以上）				平年並み（80～120%）				平年に比べて不漁（80%以下）			
	魚種	漁獲量	平年比	前年比	魚種	漁獲量	平年比	前年比	魚種	漁獲量	平年比	前年比
旋網									アジ	1,998t	69%	81%
									サバ	1,472t	39%	25%
									イワシ	10t	37%	435%
									イナダ	142t	26%	15%
									ブリ	79t	18%	38%
定置網	小ブリ	240t	188%	184%	イワシ	17t	89%	142%	アジ	517t	73%	73%
	メジマグロ	71t	153%	124%	イナダ	295t	109%	110%	大ブリ	194t	77%	82%
	ヒラメ	24t	299%	184%	ブリ合計	806t	107%	118%	サクラマス	4t	66%	83%
					マダイ	41t	114%	116%	スルメイカ（生）	137t	36%	89%
									ヤリイカ	20t	69%	58%
板曳網	ムシガレイ	79t	168%	131%	ヤナギムシガレイ	111t	104%	96%	ヒラメ	91t	75%	59%
					その他カレイ	61t	98%	106%	マガレイ	60t	64%	67%
									マコガレイ	17t	64%	79%
									タコ類	49t	65%	87%
底曳網	ハタハタ	544t	158%	408%	ニギス	511t	85%	85%	スケトウダラ	80t	52%	83%
	ムシガレイ	22t	153%	95%	マダラ	323t	112%	116%	ホッケ	246t	70%	280%
					ホッコクアカエビ	300t	116%	89%	タコ類	37t	67%	100%
									ヒラメ	11t	66%	56%
									マガレイ	20t	58%	60%
									アカガレイ	41t	69%	78%
									ヤリイカ	49t	79%	98%
イカ釣					スルメイカ（生）	3,094t	106%	162%				

※平年：過去5年間の平均水揚量

○ 平成21年漁況の主な特徴

【浮魚類】
・まき網では10月の水揚げがほとんどなく、主要魚種全てが不調でした。
・定置網では小ブリ、メジマグロ及びヒラメが好漁でした。
・ブリ類は大ブリが不調で、魚体も小型でした。
・スルメイカ釣（生：主要港1～12月）は、3.094トンで平年並みでしたが、不調であった昨年を上回りました。

【底魚類】
・平成21年1～12月の県内主要地区における板曳網（4地区）の総漁獲量は前年比86%、平年比86%、水揚金額では前年比84%、平年比86%となり、前年及び平年をやや下回りました。
・底曳網（8地区）の総漁獲量は前年比115%、平年比96%、水揚金額では前年比95%、平年比92%となり、ほぼ前年並みでしたが、平年をやや下回りました。
・10月までは板曳網、底曳網ともに平年並みの漁獲量でしたが、11月以降、時化や大型クラゲの来遊によって出漁できず、漁獲量が大きく減少しました。
・板曳網ではヤナギムシガレイが1～2月に豊漁となりました。一方、ヒラメは9月以降、平成20年生まれ（全長30～35cm）の漁獲が極めて少なく、平成22年の漁獲減が懸念されます。
・マダラは前年及び平年並み以上の漁獲があり、好漁が続きました。
・ハタハタは平成18年生まれ（大サイズ）の資源水準が高いため、春季は大幅な漁獲増となりました。一方、秋季について、北部では資源はあるものの漁場が形成されず、また南部では12月の漁期が時化続きとなったため、不漁となりました。
・アカムツは、9月以降に資源水準の高い平成19年生まれ（全長15cm前後）が漁獲加入し、北部海域で小型魚の漁獲が増加しました（前年比157%）。
・その他の主要魚種（全漁法集計）では、マダイ（前年比69%）、アンコウ（同 79%）、シロギス（同 63%）、ウスメバル（同 99%）、ズワイガニ雄（同 94%）でした。